

2021年7月5日

大田区長 松原忠義様

大田区教育長 小黒仁史様

エールおおた区議団(緑・生活者ネット・立憲)

野呂 恵子

北澤 潤子

平野 春望

庄嶋 孝広

小川あずさ

東京オリンピック・パラリンピックの学校連携観戦の中止を求める要望書

日頃、子どもたちの教育の充実に努めておられることに感謝をいたします。

さて、6月21日、東京オリンピックの観客数を定員の50%以内で上限1万人と決定しましたが、大会関係者や学校連携観戦プログラムは別枠としており、都内の公立学校だけでも81万人が観戦予定となっています。大田区だけでも4万人です。都教育委員会が未だ現状に即した判断を示していないことに不安を感じざるを得ません。

学校連携観戦は、真夏の暑い時期に公共交通機関を利用して競技会場に子どもたちが団体で行かなければならず、熱中症対策等が課題とされています。

さらに、東京都は緊急事態宣言からまん延防止等重点措置に切り替わりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、加えてデルタ株など変異株による感染拡大も懸念されます。安全・安心な観戦が保障できる状況にはありません。

すでに目黒区、文京区、板橋区、足立区、小平市、武蔵野市、三鷹市、立川市、国立市は、児童・生徒の安全を確実に確保できないと判断し、参加中止を発表しています。

子どもたちは、このコロナ禍の1年、学校行事の縮小や部活動の制限をされている状況です。

また、教育委員会は一学級一名の引率補助員を確保しましたが、補助員は会場に入ることができず、オリンピック・パラリンピック観戦はコロナウイルス感染防止に逆行するものです。また、保護者からも学校からの具体的な情報がないことについて心配の声があがっています。

東京都教育委員会としては、「入場券は希望する学校に配るものであり、これから区市町村教育委員会を通して各学校の意向調査をする」ということですが、そうなるとなおさら大田区としての責任が問われます。

エールおおた区議団は、安心・安全、子どもたちの感染防止を最優先し、学校連携観戦を中止するよう要望します。